

全国学力・学習状況調査の概要	
学 力 面	学 習 状 況 面
<成果> ○国語科では、チラシや手紙を修正する問題など、相手を意識して文章を書いたり推敲したりすることができた。 ○数学科では、記述問題の正答率が高い。平均無回答率が、全国平均より低い傾向にある。 ○理科では、「ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる」問題において正答率が高かった。 <課題> ▲国語科では、文脈に応じた漢字の使い分けができなかった。また、プレゼンテーション時のスライドの使う根拠の説明ができなかった。 ▲数学科では、自分で判例をあげたり、新しくわかることを考えたりするのが苦手である。また、簡単な用語の意味を忘れてしまっている生徒が多い。 ▲理科では、身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる問題に課題があった。	<成果> ○授業において、ICT機器の活用が進み、情報を調べたり、発表の資料に活用したりすることができている。 ○発表時には、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表することができていると回答する生徒が多かった。 ○数学や理科では、「学んだことが将来に役立つ」と答えた生徒が多く、数学・理科の授業に前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。 <課題> ▲「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の回答が全国や県よりも低く、学びに対して受け身な生徒が多くみられる。 ▲家庭での学習時間が短く、2時間未満の生徒の割合が、県・全国の比べて多い。3時間以上も少ない。

岡山県学力・学習状況調査の概要	
学 力 面	学 習 状 況 面
<成果> ○国語科では、説明的な文章・文学的な文章の内容を読み取ることについては、目標値を大きく上回っていた。また、漢字や文法など、語句の知識については理解ができている。 ○数学科では、計算を解く力は少しずつ身についてきている。 ○英語科では、プレゼンテーションが少しずつ上手になってきたことがわかる。また、身近で簡単な語句や英文を聞き意味や内容を理解することができている。例を参考にして基本的な表現を用いて自分のことを書くことができている。 <課題> ▲国語科では、「文法・語句に関する事項」、また、「目的に応じて必要な情報に着目して、内容を解釈することや、文章を読んで自分の考えを確かなものにすること」に苦手を感じる生徒が多い。「書くこと」について、苦手意識を持つ生徒が多く、無回答率も高かった。	<成果> ○国語・数学ともに、数学の授業の内容はよく分かるという生徒の割合が多い。 ○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができた学年は正答率が高かった。 ○同様に、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。また、授業の振り返りとして、学習した内容や学習の仕方について、自分で考えを書いたり、伝え合ったりするなどしていた学年は正答率が高かった。 <課題> ▲家庭での学習時間が短い。そのため、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」、に肯定的に答えた生徒が少なかった。 ▲自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表することに苦手意識がある。 ▲与えられた課題などはきちんと取り組む生徒が多いが、自分で考えて工夫しながら取り組む生徒が少ない。

- ▲数学科では、問題文の意図を深く読み取ることができていない生徒が多い。そのため、学習意欲が低い生徒がみられる。
- ▲英語科では、対話を聞き目的・場面・状況を推測することを苦手としている。

改 善 策

学 校 で の 取 組

①授業規律

- ・授業前後のあいさつ・教室環境の整備、切り替えスピードを意識させて、メリハリのある授業の展開をする。

②分かりやすい授業の工夫

- ・ペア活動、話し合い活動など、言語活動やコミュニケーション活動を充実させ、アウトプットを重視する。
- ・条件に合った文章や要約等の「書くこと」の活動を増やす。
- ・ICT 機器を習得時、課題解決時のみでなく、発表時や意見交換時にも活用する。
- ・授業での振り返りを行い、客観的に考える力をつけさせる。

③基礎・基本の定着のための取組

- ・タブドリ Live！などの ICT 機器を活用し、基礎的、基本的な知識の定着を図る。
- ・課題の出し方を工夫するなど、個に応じた学習をすすめる。
- ・各教科の小テストや帯活動を充実させる。

④落ち着いた学習に取り組める集団をつくる。

- ・i-check（生徒の現状を知るアンケート）を実施して生徒一人一人への理解を図るとともに、全体の傾向を分析し、有効な手立てを講じること。
- ・集団づくりのために学級活動、道徳、行事などで計画的な取組を行うこと。（「ほめ言葉のシャワー」の取組を中心として、人間関係づくり・コミュニケーション力の向上に取り組むこと。）

あい・かもがた学園 で の 取 組

- カリキュラム「あい・かもがた学」に沿って、中学校区で一貫した指導を行い、基礎学力の定着、学び合い活動の充実を図り、自立した学習者を育成する。
- 「ほめ言葉のシャワー」の取組を通して、互いに認め合う温かい人間関係作りに努めるとともに自己肯定感を高めることができるようにする。
- 各校の授業参観や情報交換の機会を設け、園・小・中学校のスムーズな接続を図る。

家庭・地域へのお願い

- 課題は必ず1日に一つは出ているので、保護者に確認していただき、生徒自身が課題にどのように取り組んでいるか確認していただきたい。
- ネットの使い方について、ルールを話し合うなど、家庭でよく相談していただきたい。
- コミュニティ・スクールの活動を通して、学校、家庭、地域が、より強固に連携・協力しながら地域の宝である子どもたちを育てていきたいと考えています。ご協力、お力添えをお願いします。